



月の障壁

プラトンとアリストテレスは、生命が月より下の領域に制限されているという主張で正しかったのか？なぜ科学はそれを検証することを怠ったのか？この謎の哲学的探求。

印刷日：2024年12月24日

CosmicPhilosophy.org
哲学による宇宙の理解

目次

1. プラトンとアリストテレスは生命について正しかったのか？

2. 著者について

❓ 生命は宇宙でどれだけ地球から離れた場所まで到達したのか？

3. 科学が検証を怠った謎

4. 科学史の重要な一部

🚀 科学革命とアリストテレス物理学からの移行

👤 Francis Bacon、Chen Ning Yang、Robert Mills

5. 追放

👤 哲学者Giordano Bruno

5.1. 😬 機微な話題を問うことで追放される

5.2. 😬 ビッグバン理論を問うことで追放される

👤 科学作家Eric J. Lerner

6. 結論

7. 更新2024

🤖 2024年のGPT-4 AI：科学はまだ月を超えて生命を送っていない

🇮🇷 イランが2023年12月に動物を宇宙に送った

第1.章

プラトンとアリストテレスは生命について正しかったのか？

広 大な宇宙空間、地球の大気圏と月の軌道を超えたところに、謎めいた障壁が存在します。それは何千年もの間、哲学的議論の対象となってきた障壁です。哲学者プラトンとアリストテレスは、月を超えた生命は不可能だと考えました。彼らはそれを生命の領域と永続性の領域との境界として捉えていたのです。

今日、人類は宇宙に飛び出して宇宙を探検することを夢見ています。スタートレックから現代の宇宙探査計画まで、大衆文化は私たちが自由に宇宙を旅することができるという考えを植え付けてきました。まるで私たちが本質的に太陽系から独立しているかのように。しかし、もしプラトンとアリストテレスが正しかったとしたら？



もし生命が☀️太陽の周辺の領域に束縛されているとすれば、その意味するところは計り知れません。人類は遠い星や銀河へ旅することができないかもしれません。地球から脱出しようとするのではなく、私たちは地球と生命の源である太陽そのものを守ることに努力を集中する必要があるかもしれません。この認識は、宇宙における私たちの位置づけと、地球の住人としての責任についての理解を根本的に変える可能性があります。

人類は月を超えて✨星々に到達できるのでしょうか？地球の有機生命は火星で存在可能なのでしょうか？

この問いを、存在と宇宙における私たちの位置づけに関する人類の最も深い問いと長く取り組んできた学問である**哲学**を用いて探求してみまし

よう。

第2.章

著者について



GMODebate.orgと  CosmicPhilosophy.orgの創設者である著者は、2006年頃にオランダの批評的ブログ

 Zielenknijper.comを通じて哲学の旅を始めました。彼の最初の焦点は、自由意志廃絶運動と分類したものの調査でした。この初期の研究は、 優生学、科学、道徳、そして生命の本質に関連する哲学的問題のより広範な探求の基礎となりました。

2021年、著者は画期的な新しい生命の源に関する理論を展開しました。この理論は、生命の源が¹⁾ 身体的個体または²⁾ 外部性のいずれにも含まれ得ず、既存のものとは異なる文脈（始まりのない ∞ 無限）に存在しなければならないと提案しています。この洞察は、著名な哲学教授ダニエル・C・デネットとのオンラインフォーラムでの**脳のない意識**と題された議論から生まれました。

Dennett: それは決して意識に関する理論ではありません。...まるで自動車の生産ラインでの新しい歯車の導入が都市計画や交通管制に重要だと言っているようなものです。

著者: 感覚に先行したものは人間に先行していると述べることができます。したがって、意識の起源を身体的個体の範囲外に求める必要があります。

この哲学的breakthrough は著者を単純な問いへと導きました：

生命は宇宙でどれだけ地球から離れた場所まで到達したのか？



著者が驚いたことに、動物、植物、微生物を含む地球上のいかなる生命形態も、月を超えて科学的に試験されたり送られたりしたことがないことを発見しました。これは宇宙旅行や人類の火星送還計画への多大な投資を考えると衝撃的な発見でした。なぜ科学は☀️太陽からより遠くで生命が生存できるかどうかを検証することを怠ったのでしょうか？



第3.章

謎

なぜ科学は生命が月を超えて旅することができるかどうかを検証しなかったのか？

著者が古代ギリシャの哲学者プラトンとアリストテレスが、生命は月より下の月下界に制限されていると予言していたことを発見したとき、この謎は更に深まりました。彼らの理論は、月を超えた月上界では生命が存在できない可能性を示唆しています。



プラトンとアリストテレスは何か気づいていたのでしょうか？2024年になっても、この問いを否定できないという事実は注目に値します。



第4.章

科学史の重要な一部

プラトンとアリストテレスの理論は科学史において重要な役割を果たしてきました。科学革命は多くの点で、月を超えて生命が存在できないという考えに対する反乱でした。この概念はアリストテレス物理学から現代科学理論への移行の基礎にありました。

科学革命の重要人物であるフランシス・ベーコンは、月下界と月上界の区別というアリストテレス的な考えを否定しました。哲学者ジョルダノ・ブルーノもまた月下界と月上界の区分を否定しようとしていました。これらの領域の区別は、チェン・ニン・ヤンとロバート・ミルズの研究など、新しい科学理論と発見の発展によってさらに挑戦を受けました。



科学史を通じてプラトンとアリストテレスの理論が持続してきたことは、その重要性を強調しています。これは疑問を投げかけます：なぜ現代科学は、特に技術的能力を持つようになった今、生命が月を超えて旅することができるかどうかを検証していないのでしょうか？

信念を疑うことによる追放

歴

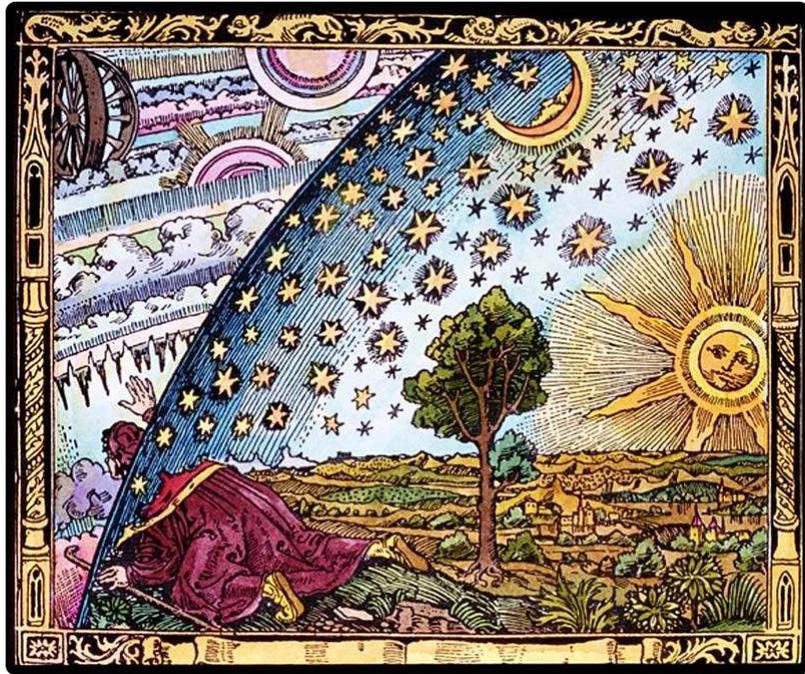
史を通じて、ソクラテス、アナクサゴラス、アリストテレス、ヒュパティア、ジョルダーノ・ブルーノ、バルーフ・スピノザ、アルベルト・アインシュタインのような哲学者や科学者たちは、

真理への忠誠と知識の追求のために追放に直面してきました。アナクサゴラスは月が岩石であると主張したことで追放され、ソクラテスは確立された宗教的・社会的秩序に疑問を投げかけたことで死刑を宣告されました。

哲学者ジョルダーノ・ブルーノはプラトンとアリストテレスの月下界理論に疑問を投げかけたことで火刑に処されました。

ウェルギリウス（アエネーイス、VI.724-727）は、月上界と月下界を内部からspiritusによって活性化されたものとして描写しました。ジョルダーノ・ブルーノはこれを普遍的魂と同一視し、それらがその広大な質量全体に広がる精神によって動かされていると付け加えました。

ジョルダーノ・ブルーノはルネサンス期の哲学者で、支配的なアリストテレス的見解に疑問を投げかけ、アリストテレスの月下界理論に反する元素論を提唱しました。ローマ異端審問は彼の非正統的な信念のために彼を火刑に処しました。



18世紀の木版画で、ブルーノの古典的宇宙を超えた夢を描いています。

🦋 GModebate.orgの著者は、機微な話題を問うことで現代的な追放を経験しています。例えば、植物の感覚について議論したり、ビッグバン理論を批判したりしたことで、しばしば追放されてきました。これらの追放は、謎めいた[WordPressプラグインの禁止](#)や●[マリモ禁止](#)の話のように、彼のビジネスや私生活にまで及んでいます。

第5.2.章

ビッグバン理論

を問うことで追放される



2021年6月、著者はビッグバン理論を問うたことでSpace.comから追放されました。その投稿では、この理論に異議を唱えたアルベルト・アイ

ンシュタインの最近発見された論文について議論していました。

ベルリンのプロイセン科学アカデミーに提出されたアルベルト・アインシュタインの謎の失われた論文が2013年にエルサレムで発見されました...

(2023) アインシュタインに私は間違っていたと言わせる

ソース: onlinephilosophyclub.com

ビッグバン理論が宗教的な地位を獲得しているという一部の科学者の間で広がる認識について議論したこの投稿は、いくつかの思慮深い返答を集めていました。しかし、Space.comの通常の慣行である単なる閉鎖ではなく、突然削除されました。この異常な行動は、その削除の背後にある動機について疑問を投げかけました。

モデレーターの声明、このスレッドは役目を終えました。貢献してくださった方々に感謝します。ここで閉鎖しますは、皮肉にも閉鎖を告げながら実際にはスレッド全体を削除していました。著者が後にこの削除に対して丁寧な異議を唱えた際、さらに厳しい対応がなされ、Space.comのアカウント全体が禁止され、過去の投稿がすべて消去されました。これはプラットフォームにおける科学的議論への懸念すべき不寛容を示唆しています。

著名な科学作家エリック・J・ラーナーは2022年に次のような記事を書きました：



「天文学の学術誌でビッグバンを批判する論文を発表することはほぼ不可能になっています。」

(2022) ビッグバンは起こらなかった

ソース: [芸術とアイデアの研究所](#)

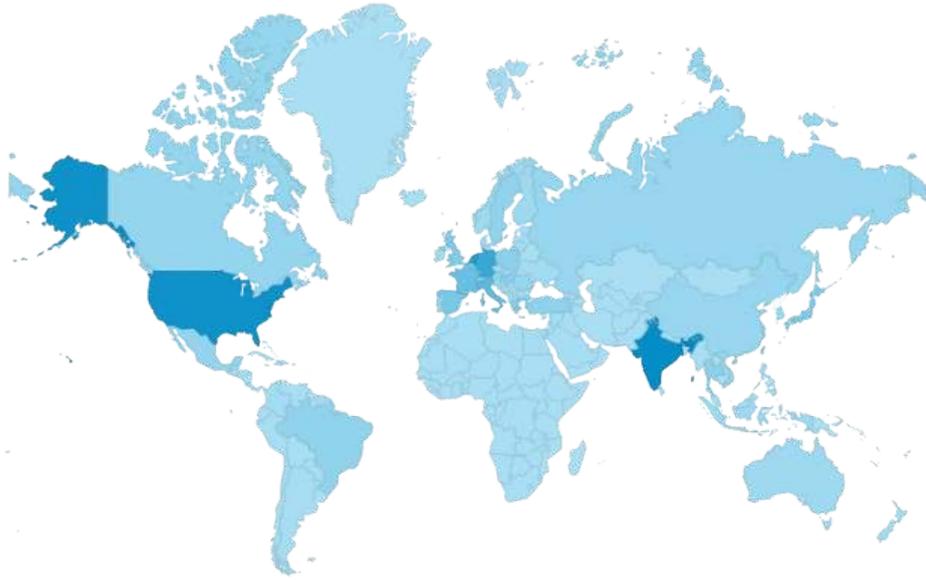
学者たちはビッグバン理論を批判することを含む特定の研究を禁じられています。

第6.章

結論

も し生命が☀️太陽の周辺領域に束縛されているとすれば、人類の自然、現実、宇宙旅行に対する理解は根本的に誤っていることになります。この認識は、人類の進歩と生存のための道筋を導く新しい哲学的思考を必要とします。地球から脱出しようとするのではなく、地球を、そして生命の源である太陽をも保護することに投資する方が良いかもしれません。

なぜ、これほどの年月を経ても、科学は生命が月を超えて旅することができるかどうかを検証していないのでしょうか？もしプラトンとアリストテレスが正しく、月が生命の越えられない障壁を示しているとしたら？



第7.章

更新2024

この更新時点から3年前の2021年以來、この記事はクリーンモビリティのためのe-scooter.coで99以上の言語で prominently に掲載され、平均して週に200カ国以上からの訪問者がありました。ウェブサイトは立ち上げから1年以内に、文字通り世界のすべての国から訪問されました。

この記事はウェブサイトのヘッダーで目立つように掲載され、すべての訪問者に表示されていました。このウェブサイトは明らかにある程度の影響力を持っていました。

奇妙なことに、何も変わりませんでした。

2024年のGPT-4：動物、植物、微生物を含む地球の生命形態は、月を超えて科学的に検証されたり送られたりしていません。

2023年12月、イランは不明な動物を乗せた特別なカプセルを宇宙に送りました。イランが最初の科学的検証を行うことになるのでしょうか？

(2023) イランは動物を乗せたカプセルを宇宙に送りました

ソース: [Al Jazeera](#)

なぜ、これほどの年月を経ても、科学は生命が●月を超えて旅することができるかどうかを検証していないのでしょうか？



宇宙哲学

あなたの洞察とコメントを info@cosphi.org でお
寄せください。

印刷日：2024年12月24日

CosmicPhilosophy.org
哲学による宇宙の理解

© 2024 Philosophical.Ventures Inc.